

令和5年度第1回地域ケア推進会議 記録【要約】

【日時】令和5年10月13日（金）13:00～14:30

【場所】仁淀川町役場 3階会議室

【出席者】（敬称略）

事例提供者：仁淀川町役場 健康福祉課 保健師 大野茜

NPO 法人フレイルサポート仁淀川（生活支援コーディネーター）：小松仁視、和田こずえ、
作業療法士：有光一樹

上野ハーネス：上野社長、上野副社長、

仁淀川町社会福祉協議会：田中恵美、西森卓也

仁淀川町役場健康福祉課：石本まき、西森孝生、掛水房美

【テーマ及び検討内容】

認知症があり管理能力が低下、また経済的に困窮しているケースの情報共有と今後の支援の方向性について

【内容】

1. 事例提供者より、ケースの概要説明

もの忘れがありアルツハイマー型認知症と診断された。金銭管理、掃除、清潔保持など生活機能の低下がみられる。経済的に困窮しており、医療の継続や介護保険サービスの利用が難しい。

2. 各関係機関より

社協（田中恵美）：令和5年3月より生活困窮者支援として関わっていたが、通帳を持っていかれたと誤解され支援員との関係が悪化し、8月に終結となっている。生命保険があり、生活保護申請も却下となっている。終結以降の関りは地区担当保健師と地域包括支援センターに引き継いだ。

上野ハーネス（上野社長）：週2回の利用だが、覚えが悪く、対応に苦慮していたところ、本人から認知症との申告があった。作業は毎回の声かけが必要で支援員の見守りが必要な状態。今後の作業継続は困難。

フレイルサポート仁淀川（小松さん）：ハツラツツ利用開始後、身なりも整い、食事も利用開始直後のような頻回なおかわりをしたりすることもなくなっていたが、ここ最近、身なりが乱れた印象があり、毎回参加していた共食も食べずに帰ったことがあった。経済的な心配がある。ハツラツツは10月末で終了。ハツラツツ利用前の情報共有が必要だった。

作業療法士（有光さん）：カレンダーに予定を書き込んだ視覚支援が効果的。家庭訪問では、台所の整理整頓ができておらず、衛生的にも良いとはいえない状況だった。

3. 課題と考えられること

- ・金銭管理（困窮している状況は継続）

- ・作業所の作業内容がご本人には難しいが、活動しないとうつ傾向となる
- ・認知症があり、スケジュール管理や服薬管理が困難
- ・居室の整理整頓ができない。衛生面の心配がある
- ・清潔面（最近乱れてきた） 体臭（+）⇒ 住宅の浴室ガス操作ができない？！
- ・食事がとれているか → 好き嫌いがあり、地域の商店の支援はあるがつかない。
調理行っていない。
- ・ハツラツ終了後も、お支えさんとしての役割は困難
- ・事前の情報共有が不十分であった。

4. 今後の支援

- ・ほほえみの継続は困難 → あったか（給食サービスの調理ボランティアなど）等で社会参加の場をすすめていく。
- ・介護保険サービスの利用も検討していく → デイサービス利用できれば、入浴、食事の確保、社会交流の維持ができるが、経済的な負担が大きい。
- ・今後、独居の継続は困難では。家賃の負担を減らし、日常生活の見守りが得られる高齢者支援ハウスへの転居はどうか。 → 以前本人に提案したが、「施設」と言う認識が強く拒否あり。家族は希望していた。高齢者支援ハウス（みやび苑）について、正しい情報提供を。経済的に困窮している今のタイミングで行うことが必要ではないか？
- ・清潔の保持 → 何故入浴できていないのか、ガスの操作が自分で可能か確認する。デイ利用も検討。視覚支援が効果的であるため、カレンダーに入浴日や時間を記入してはどうか。身なりや清潔維持ができれば、ハツラツやほほえみなどにも来ることができるのでは。
- ・金銭管理は今後も三男に。（経済的な支援は困難） → 今月以降の残高をチェックしていく。
- ・食事の確保
- ・視覚支援の活用。
- ・社協との関わりも継続必要（関係性の修復が必要。）
- ・環境整備（有光先生に助言いただく。）